

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 14日は、発達した低気圧がオホーツク海を北上し、高気圧が西日本付近に移動する。
- 15日から16日にかけて、北日本を気圧の谷が通過し、冬型の気圧配置となる。
- 17日から18日にかけて、日本付近は冬型の気圧配置が続く。

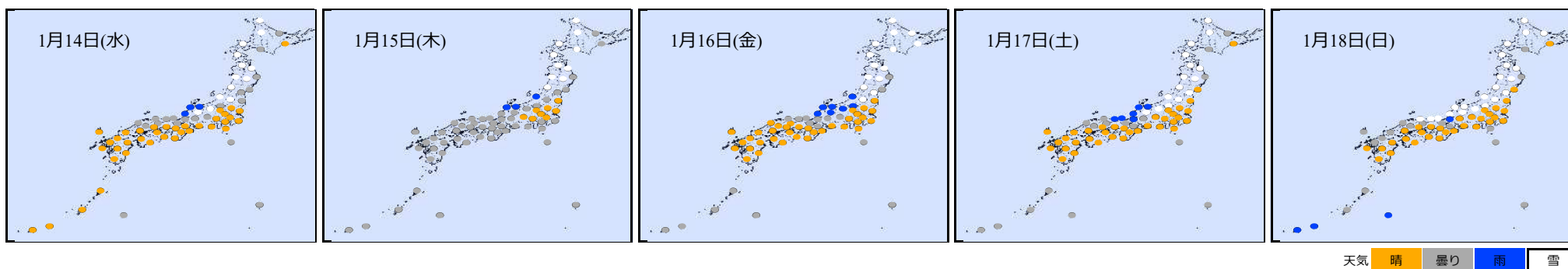
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 14日にかけては、低気圧が発達しながらオホーツク海を進むため、北日本日本海側を中心に荒れた天気となり、低気圧の発達程度等によっては大荒れや大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

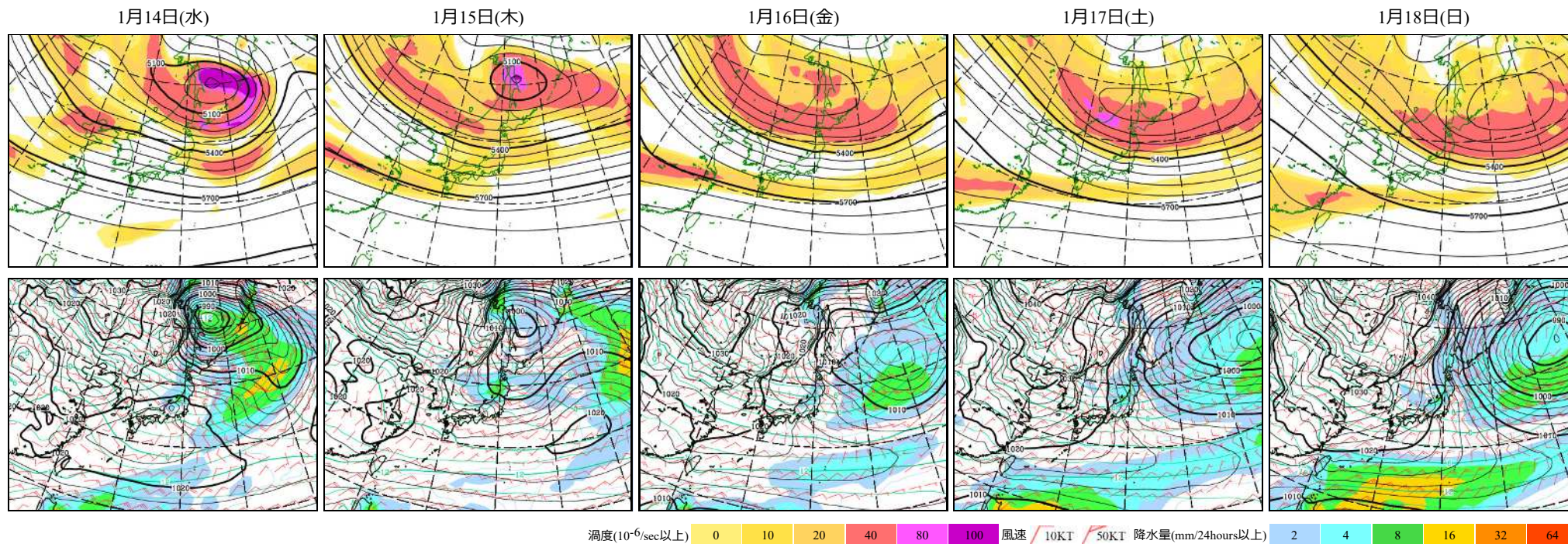
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

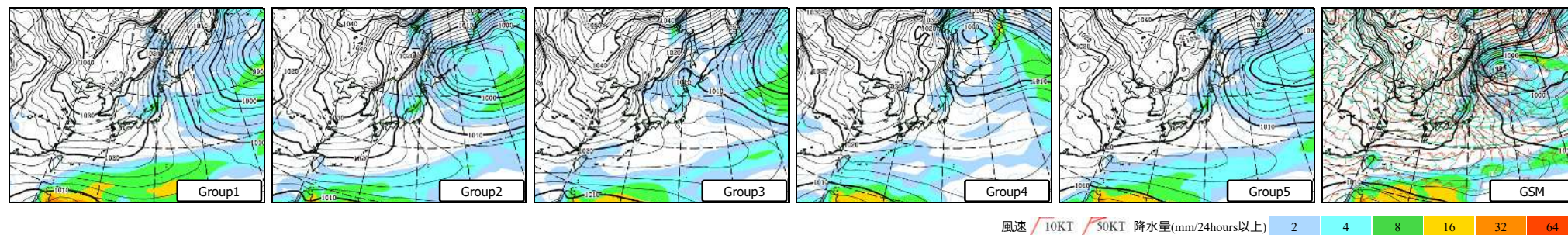


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、14日は晴れる所が多い。その後は雲が広がりやすく、18日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月17日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはない。15日に北日本に進むトラフがやや浅くなった。地上の気圧配置の予想は、15日に北日本に進む気圧の谷の東進がやや早まった。
- 15日頃までは、各モデルともに初期値変わりは小さく、モデル間の差も小さくなっている。16日以降は初期値変わりが大きいモデルもあるが、17日後半から18日にかけて強い寒気が日本付近に流れ込む予想は揃っている。
- 17日は、GSMは千島近海、NCEPは日本の東に低気圧を予想するが、ECMは低気圧の予想はない。ENSは各モデルに近いメンバーの他、日本海北部やオホーツク海に低気圧を予想するメンバーも含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。